

感動の場

『忿怒学的散歩』

1986 年 小川原 脩 画

「忿怒学」は、小川原脩がつくった造語である。忿怒とは、大いに怒ること。忿怒の形相といえは不動明王などの神仏にも見られるもので、人々を襲う悪をその恐ろしい風貌で追い払うほかに、畏怖をもって、教えに耳を貸さない衆生たちを導く顔である。これを学問するということがらしい。

この作品の主演はやはり、黒茶の肌に三つ目を見開き、頭に5つの髑髏どくろを載せて、口を大きく開いた、顔。子どもたちから、獅子舞の「ししがしら」という声があがった。本来はチベット仏教寺院さいしの祭祀で僧侶が被る神仏を模した仮面で、舞踏によって悪霊との闘いの物語が紡がれる。ししがしらとチベットの仮面に「神聖なもの」「厄よけ」といった共通点を、感じ取っているようだった。

小川原は1983年、いにしえのチベット文化が色濃く残る地・ラダックを訪れた。3年の時を経て題材となったこの仮面は、衣をなびかせ、ふわふわと宙を浮いて動き回り、ちっとも怒っているように見えない。子犬たちと街を歩く姿には、ユーモアを効かせた「忿怒学的散歩」が一番しっくりくるように思う。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）



—明治の体操道具・木亜鈴—

倶知安風土館の収蔵品の中で、とりわけ多くの方から用途を尋ねられるものの1つに「木亜鈴（木製ダンベル）」があります。

この道具は、明治初頭にアメリカから伝わった“亜鈴体操”という体操で使用されたもので、重さを利用して動きにはずみをつけたり、打ち鳴らした音でリズムを取ったりしました。重さは150㌔ほどで、同じ大きさの鉄製ダンベルに比べるとかなり軽量ですが、機敏に動くにはちょうど良かったのでしょうか。

日本に伝わった当初の亜鈴体操は、なかなか浸透しなかったようですが、明治19年に体操科が必修科目になったことで転機を迎えます。亜鈴体操は徐々に定着し、「小學普通體操法」しょうがくふつうたいそうほう、「小学校体操教科書」など、振り付けが細かく記された教科書が発行されました。明治20年代の本州の小学校では、運動会の種目として盛んに行われるようになりました。しかし、明治35年頃、スウェーデン体操という、のちの学校体育に多大な影響を与えた体操が取り入れられたことで、亜鈴体操は緩やかに勢いを失っていきます。

開拓から15年ほど経った明治42年頃の倶知安の小学校でも亜鈴体操が行われており、倶知安町百年史（上）には「このころ亜鈴体操というのがありました。五寸（15㌔）位の亜鈴をもって、一二三四、二二三四、三二三四、四二三四と号令にあわせ、亜鈴を前後左右でハチ合わせ、体を伸縮させる運動でしたが勇ましいものでした」と記されています。

かつて多くの教育現場で行われ、そして姿を消していった亜鈴体操。木亜鈴は、その栄枯盛衰の様を現代まで語り継いでいます。

▲木亜鈴（木製ダンベル）

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

展覧会のお知らせ

■常設展示

小川原脩展 「小川原脩 遙かなるイマージュⅡ」

会 期：開催中～平成31年1月20日(日) 会 場：第2展示室

小川原脩展 「小川原脩 遙かなるイマージュⅢ」

「遙かなるイマージュ」は1988年に北海道立近代美術館において開催された大規模な回顧展の副題＜対話・沈黙―遙かなるイマージュ＞より抜粋した言葉で、小川原脩の創作姿勢を想起させるフレーズです。アジアの清澄な世界を描く、小川原脩晩年の代表的作品を中心に紹介します。※開始初日は観覧無料

会 期：12月22日(土)～平成31年4月14日(日)

会 場：第1展示室

■企画展示

第60回 麓彩会記念展

会 期：開催中～12月16日(日) 会 場：第1展示室

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

アート探訪〈みて・きいて〉22「大英博物館」

世界最大規模を誇る、ロンドンの国立博物館。エジプト、ギリシャ、アジア各地の豊富な美術品・文化資料を所蔵し、後に日本美術展示室も増設されました。この巨大な施設を2時間で回ります。

日 時：12月1日(土)14時～16時10分

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

アート探訪〈みて・きいて〉23「ミレー 種まく人は今」

バルビゾン派の代表的な画家ミレー。自然とともに生きる農民の素朴で力強い姿を、愛情をこめて描き続けました。バルビゾン村とその周辺に広がるフォンテーヌブローの森を訪ねてみましょう。

日 時：12月8日(土)14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

■アート・シネマ館

「ミケランジェロ・プロジェクト」2013年/120分/アメリカ

第二次世界大戦の終戦間際、ドイツ軍はヨーロッパ各国の名作を次々と略奪。それら歴史的財産の喪失を阻止するため、7人の男たちにより特殊部隊が結成されます。実話の完全映画化。

日 時：12月15日(土)14時～16時10分 お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■アート・トーク

「小川原脩 遙かなるイマージュの世界」

当館が所蔵する小川原脩の作品は約700点。その中でも代表的な作品を、1年間で何度かに分けて紹介しています。新しい展覧会がオープンする初日、学芸員と一緒に作品を楽しみましょう。

日 時：12月22日(土)14時～14時30分 お話し：沼田絵美（当館学芸員） 会 場：当館展示室（無料）

「クリスマス キッズコンサート2018」



毎年恒例の子どもたちによるクリスマス・コンサート。リコーダーやハンドベルによる合奏、合唱、ピアノ独奏などスタイルはさまざま。アートな空間での音楽会。毎回、サプライズ演奏もあります。

演 奏：町内小学校の皆さんなど 対 象：お子さまから大人まで

日 時：12月22日(土)17時30分～19時30分 会 場：当館展示室（無料）

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観 覧 料：一 般 500円（400円）

高 校 生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観 覧 料：一 般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

12月の休館日 毎週火曜日

17～21日展示替え休館

29～1月5日年末年始休館

12月のパリ

12月に入ると、パリはすっかりクリスマス一色。凱旋門からコンコルド広場まで続くシャンゼリゼ大通りは青いイルミネーションに満ち溢れ、両側にはクリスマスマーケット（屋台）が勢揃い。私が乗り降りしていたメトロの駅でさえ、入口の小さな広場はイルミネーションで彩られ、楽しい屋台が軒を連ねます。かわいいメリーゴーランドまで登場するのですよ。

大晦日には、自宅近くのパリを見下ろすサクレクール寺院でカウントダウン。ワイン片手の群集で埋め尽くされた広場では、新年を迎えると一斉に「ボナネ」（仏語）、いや各国語が飛び交う中で圧倒的に多いのは「ハッピーニューイヤー」でした。眼下では街のあちこちで花火の競演が・・・

館 長 栗 勸